

ほっかいどう

かいはつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.26

2001 季刊



北海道開発グラフ

通巻第二十六号 二〇〇一年(平成十三年)九月

監修 北海道開発局広報室

発行 財団法人北海道開発協会

〒001-0002 札幌市北区北11条西2丁目 セントラル札幌ビル
☎011-70095211 FAX 011-70095215

開発の日々の
ひとコマ



イカ釣り漁船で賑わう羅臼漁港(昭和37~38年)

出口はどこ?

写真の端から端までびっしり並んでいるもの、これはすべてイカ釣り漁船です。昭和30年代、羅臼沖はイカが大漁でした。道内各地や他県からの船団で漁港内には7~800隻の漁船がひしめきあい、昭和初期に完成した右側の舟入潤は港口が分からないほどの大混乱でした。昭和36年に完成した正面の岸壁でも係留できず、防波堤の外側にまで船をつないでいました。

現在、羅臼漁港では、魚を衛生的に扱うことができる岸壁などの新たな漁港づくりが進められています。

小樽公共職業安定所(平成9年完成)

北海道開発局営繕部は、各省庁の施設や、合同庁舎の整備を行っています。この小樽公共職業安定所も、その一つです。

建設にあたっては、外観は周辺にある明治から大正時代の建物との調和を図るデザインとし、内部は「誰もが利用しやすい施設」を心がけました。

平成9年には、小樽市の特別景観形成地区の景観形成に寄与したとして、小樽市都市景観賞を受賞しています。

特集 ● 水害に備えて

事業紹介 / 道路情報館

くまもと線 / 強い高速道路

北国賦 / 古きよき未来へ
谷目 基さん

開発事業のあゆみ / 沖合・遠洋漁業の基地から
つくり育てる漁業の基地へ
追直漁港の今昔

ピックアップ / より地震に強く、より経済的に

平成13年度北海道地方発明表彰

すまじつひときぎ...道の駅 / 海の幸を楽しめる駅

1. 浸水想定区域を公表します

平成12年9月の東海豪雨。広い範囲で洪水が発生し、名古屋市内だけで約37%が浸水しました。



水防法改正

—東海豪雨の反省を活かして—

水防法とは、水害を防ぎ、被害を軽減することを目的とした法律です。この水防法が、平成13年6月に改正されました。これは、平成12年9月の東海豪雨のときの反省点を活かしたものとなっています。例えば、避難勧告が出されたものの、住民に指示が正確に伝わらず、迅速な対応ができなかったことから、市町村に、避難場所の確保や、住民への周知を求めることになりました。このほか、洪水予報河川を増やすこと、浸水想定区域を公表することが定められました。

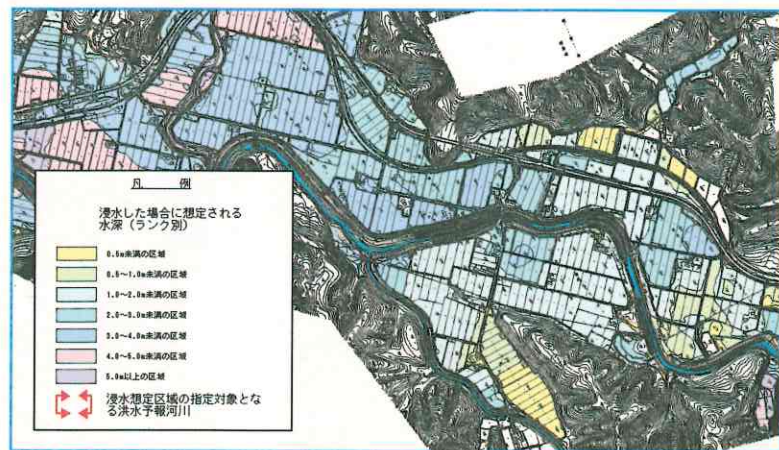
改正点

- ・洪水予報河川を増やす
- ・洪水予報河川の浸水想定区域を公表する
- ・円滑で迅速な避難のための措置

留萌川浸水想定区域

国土交通省では、7月31日から、水防法の改正にともなう「浸水想定区域」の最初の指定をしました。留萌川の浸水想定区域及び浸水深が発表されました。

今後は、全ての洪水予報河川について指定・公表をすめていく予定です。



浸水した留萌市街（昭和63年8月）

昭和63年8月、留萌川流域は、未曾有の豪雨に襲われました。短時間で豪雨が一気に流れ込んだ留萌川は氾濫し、市街地へと流れ出してきました。浸水戸数は3300戸にものぼり、農業被害は623haと大打撃を受けました。

この洪水を機に、留萌川は、直轄河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、河川工事が急ピッチで行われました。



当時の新聞

水害

特集

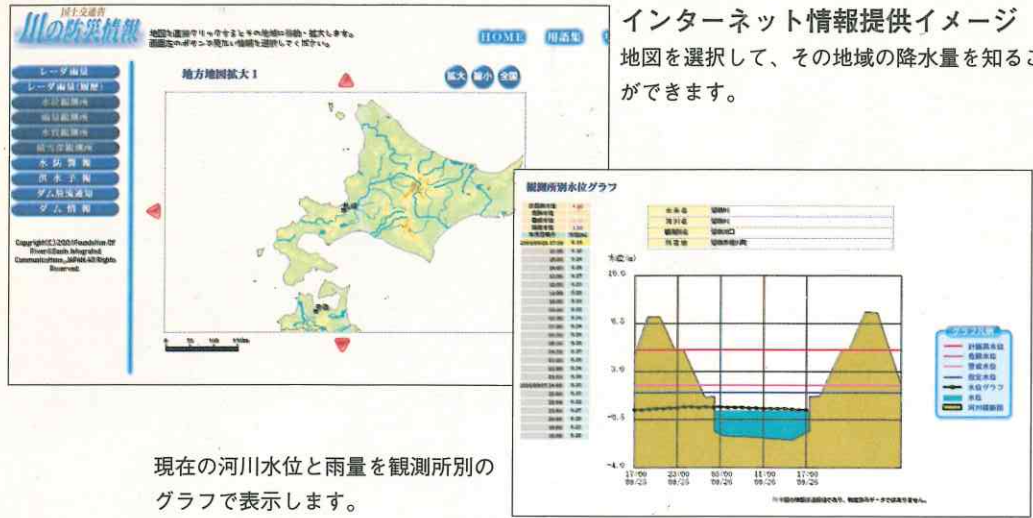
に備えて

私たちの暮らしにうるおいと安らぎを与えてくれる、川。しかし、北海道では、人口や資産が、大河川沿いの低平地に集中しているため、ひとたび洪水が起きると、広範囲に被害が及ぶことになります。北海道開発局では、水害を防ぐことを目的に、堤防や護岸、ダムなどの工事を行っています。

しかし、工事が完成するまでには、長い時間がかかってしまいます。そこで、流域に住んでいる住民の方々に、洪水について理解してもらい、いざというときに備えてもらう必要があります。インターネット・携帯電話を利用した情報提供から、毎年行う水防訓練など、さまざまな取組をご紹介します。

1. 浸水想定区域を公表します
 2. 河川情報を効率的に利用して
 3. 日頃の備え
- いざというときのために—

インターネット・iモードによる 「雨量」「水位」等の情報提供

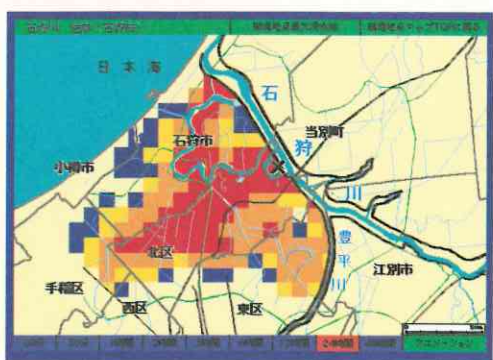


インターネットアドレス
<http://www.river.go.jp/>
iモードアドレス
<http://i.river.go.jp/>

iモード情報提供イメージ
観測所別の雨量一覧・地図上でのレーダ雨量情報を見ることができます。

国土交通省河川局では、インターネット・iモードを使った河川情報の提供を始めました。これは、誰もが利用しやすい情報通信手段を使うことにより、水害・水難等の防止を図ることを目的としています。

大雨が降ったら…? —洪水氾濫シミュレーション—



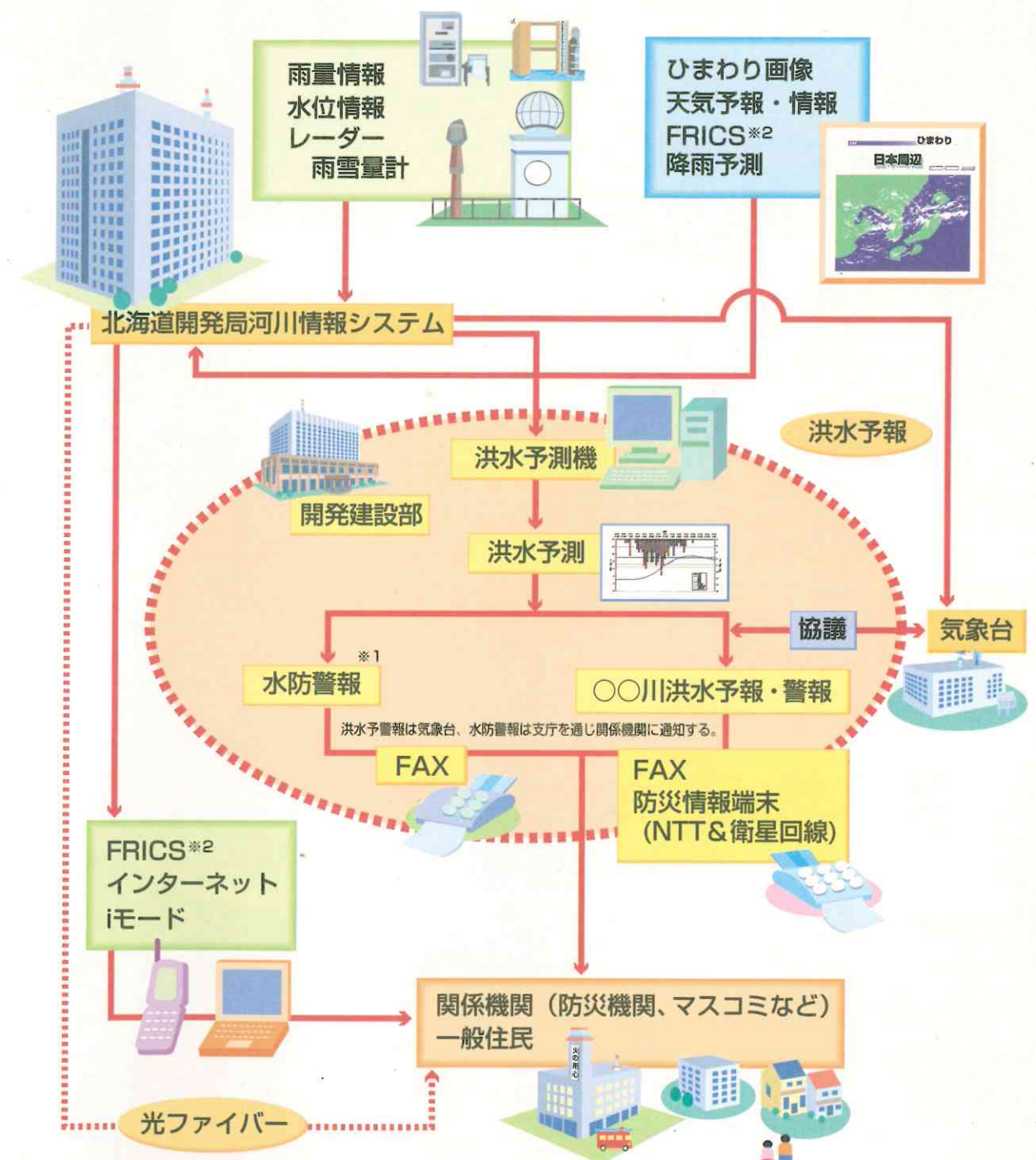
自分が住んでいる地域が、洪水の被害を受けるかどうか、考えたことがありますか？

北海道開発局では、流域住民のみなさんに、水防について関心を高めてもらうため、「洪水氾濫シミュレーション」を公開しています。これは、道内の一級河川13水系について、堤防が決壊した場合に、洪水氾濫がどこまで広がるかをシミュレーションしたもので、堤防決壊後から、どのように周辺が浸水するのかわかると追って確かめることができます。

| 水系 | 担当開発建設部(担当課) | 釧路川 | 釧路開発建設部(治水課) |
|-------|-----------------|-------|--------------|
| 石狩川下流 | 石狩川開発建設部(維持管理課) | 網走川 | 網走開発建設部(治水課) |
| 石狩川上流 | 旭川開発建設部(治水課) | 常呂川 | |
| 尻別川 | 小樽開発建設部(工務課) | 湧別川 | 旭川開発建設部(治水課) |
| 後志利別川 | 函館開発建設部(工務課) | 渚滑川 | |
| 鶴川 | 室蘭開発建設部(治水課) | 天塩川上流 | 留萌開発建設部(治水課) |
| 沙流川 | 帯広開発建設部(治水課) | 天塩川下流 | |
| 十勝川 | | 留萌川 | |

北海道開発局のホームページ (<http://www.hkd.mlit.go.jp>) から、各開発建設部のページを見ることができます。

2. 河川情報を効率的に利用して



河川情報と洪水予報、水防警報の流れ

※1 水防警報・水防関係者向けに河川管理者が出す警報

※2 河川情報センターが行う情報提供

北海道開発局では、水害による被害を軽減するための情報の収集・伝達を効率的に行うため、機器の整備や情報伝達訓練の実施などを行っています。

雨量、河川水位のデータのほかに、気象衛星ひまわりの画像、天気予報・情報などもあわせて河川情報システムに収集しています。これらのデータを用いて洪水予測を行い、水防警報を発表したり、気象台と協議して洪水予報・警報を発表したりします。

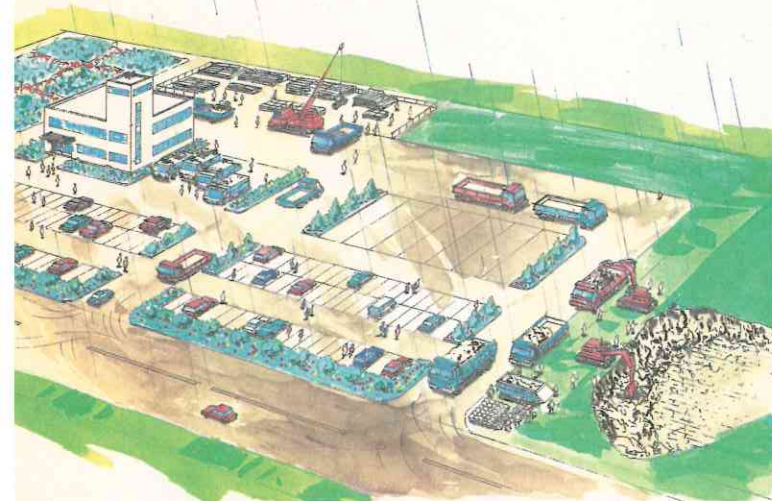
水防警報、洪水予報・警報は、FAXで防災機関やマスコミに伝えられ、さらにこれらの関係機関から一般住民のみなさんへ伝えられます。

最新の機器で最新の情報を

水害に備えて

地域を守るふれあいのスペース —河川防災ステーション—

「河川防災ステーション」とは、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保するものです。洪水時には市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地となるとともに、平常時には地域の人々のレクリエーションの場として、また河川を中心とした文化活動の拠点として大いに活用される施設です。現在北海道開発局では、石狩川、千歳川など道内7カ所で整備をすすめています。



- 災害時の機能**
- ・水防資材備蓄基地
 - ・洪水時の現地対策本部
 - ・災害対策車両基地・ヘリポートなど



平常時は緑地公園として、地域の方々にコミュニティスペースを提供します

緊急時には迅速な対応 —災害対策用機械—



土のう造成機
洪水時には、堤防からの越水、漏水を防ぐための代表的工法として土のう積みが行われています。この機械を用いると、1時間に360袋の土のうを作ることができます。

北海道開発局では、地震・水害・火山噴火等による様々な災害からみなさんの生活と財産を守るために、いろいろな災害対策用機械を開発・保有し、全道にいつでも出動できるようにしています。その中から、洪水時に役立つ機械を3つご紹介いたします。



災害対策用ヘリコプター「ほっかい」
災害の規模・状況・範囲などを速やかに確認することができ、災害拡大防止や応急復旧に役立ちます。

排水ポンプ車
洪水時にあふれた水を排除する機械です。約プール1杯分の水を、わずか6分で排除することができます。



3. 日頃の備え—いざというときのために—

平成13年度 オホーツク水防公開演習



大雨で川が増水すると、堤防から水があふれたり、堤防に損傷が生じたりという事態が起こります。その際、迅速に適切な対処をすることで、被害を最小限に防ぐことができます。この水防訓練では、さまざまな水防工法の訓練を行います。これは堤防決壊を防ぐための水防工法の一つ「月の輪工法」です。



地域の子供たちも一緒に土のう積み体験



記録的な大雨を再現して、その激しさを体験してもらいます



水陸両用車の体験試乗も行われました

水害は、いつ、どのような形で起こるものかわかりません。ですから、日頃からの訓練が必要です。そこでいざというときのため、北海道開発局、北海道、市町村が主催して「水防公開演習」が行われています。これは、水防に対する意識の高揚、技術の向上を図るためのもので、昭和59年度から毎年行われています。
今年度は6月16日、美幌町美幌航空公園で実施されました。地元水防団をはじめ、消防、警察、自衛隊や一般見学者など参加人数3,000名を数える大規模なものでした。演習では、水防団による水防工法訓練をはじめ、水難者救助、ヘリコプターや特殊車両を使った迅速で迫力のある訓練が本番さながらに繰り広げられました。

道の駅

道の駅で新鮮な魚介類を味わおう!

今回のテーマは海の幸。なかでも、地元で水揚げされたおいしい魚介を、その場で焼いて食べられる海岸沿いのスポットを紹介します。秋のドライブを楽しみながら、獲れたてグルメの旅はいかがですか。

厚岸グルメパーク

【国道44号 厚岸町】

厚岸湖を眺めながらほおばるカキの炭火焼き



厚岸湖を望むビューポイントに建つ道の駅。駅主催のカヌーツーリングやアザラシウォッチングも好評



ミニ水族館では厚岸周辺に生息する魚たちや牡蠣の歴史も紹介

JR厚岸駅裏の高台に登りつめると、展望塔がそびえる4階建ての「厚岸グルメパーク」に着きます。セピア色の外観は、「カキ」の殻をイメージに設計されたユニークなもので、ここは厚岸の豊かな食文化を発信する一大観光拠点にもなっています。眼下に町並みとカキの養殖地として知られる厚岸湖や厚岸湾が広がり、景色を楽しむにも格好の場所。その風景を眺めながら魚介や肉類などを炭火焼きで食べる2階のバーベキューコーナーが人気の的です。食材の調達は同じフロアの魚介市場で。ここにはカキやアサリ、今が旬のサンマやサケ、珍しい鯨肉（調査捕鯨もの）などが並び食欲をそそります。「今年の春から生けすを用意して、よりいっそう新鮮なものを提供しています」と、生鮮部長の加藤さん。別寒別牛川が厚岸湖に運ぶミネラルを含む良質な水の影響でプランクトンが増加して、カキをはじめとする地元の魚介は栄養いっぱいにおいしく育つのだそうです。



新鮮な魚介類を炭火でじっくり焼いて美味しく食べるのが旨い!

1階売店には、多彩なカキ加工品が揃っています。おすすめは「牡蠣の薫製」やオリジナルの「かき酢のたれ」、そして名物駅弁「かきめし」のもとを在話にした「かき飯の具」も人気だそうです。☎0153-52-4139



魚介市場の生けすにはいつも厚岸産の新鮮な殻カキを用意

よってけ! 島牧

【国道299号 島牧村】

生けすの新鮮なアワビやウニをその場でバーベキュー

島牧村は、有名な釣り場が連続する海岸線や道内一の水量を誇る「賀老の滝」、日本最大級のブナ林がある「賀老高原」など、豊かな自然に恵まれたまちです。道の駅「よってけ!



ネタ揃いの生けすから好きな魚介を選んで

島牧」は、これら名所のアプローチに便利な場所にあり、すぐ近くの海岸には「漁り火温泉」もあります。駅隣の「自然体験学習センター・島牧知ろう館」では、映像と展示で観光情報を提供しているので、ここも見逃せません。



レストランの窓からは日本海が見える。活きのいい海の幸をそのままバーベキューグリルへ

島牧の食といえば、やはり日本海で獲れる海の幸でしょう。館内に入って、まず目に着くのが数種の魚介を入れた生けす。覗くと、アワビやホタテやツブなどが



「漁り火温泉」は駅のすぐそば。波打ち際の露天風呂が魅力的

がさかんに動いています。ここから魚介類をお好みで選び、その場で焼いて食べられるグリル付きレストランが人気です。また、魚介を生きたまま持ち帰りたいという方のためには発砲スチロールの容器も別途用意。お土産にも喜ばれているようです。



道の駅のすぐ後ろは日本海。近くには日本の渚100選の江の島海岸も

特産コーナーには一工夫された水産加工品が並んでいます。店長の宮田さんのイチ押しは、道の駅特製の「つぶの塩辛」と「いかの塩辛」。他には「だるまいか」や島牧ワインもおすすめだそうです。☎0136-74-5183



冬に強い高速道路に 網走開発建設部 遠軽道路建設事業所 建設係長 松久 浩



旭川と紋別を結ぶ高規格幹線道路、旭川・紋別自動車道。この道路のうち、上越から白滝までを結ぶ上越白滝道路(18.9km)が、平成13年度中に開通する予定です。高規格幹線道路とは、簡単にいうと高速道路のこと。山岳地帯を通る高速道路ならではの工夫をご紹介します。



現在旭川から紋別へ向かう時の最大の難所、北見峠は、トンネルで結ぶことになりました。曲がりくねった山道に比べ、通行がかなり楽になります。

私は、旭川紋別自動車道の計画・建設を担当しています。この道路の特徴は、なんと11m、標高857mの険しい山岳地帯を通っていることです。現在建設中の高規格幹線道路のうち、最も険しいルートともいわれています。標高の高さから、冬期間の吹雪による視界不良など、厳しい気象条件が予想されており、いかに「冬に強い高速道路」を実現するかが、重要な課題となっています。

たとえば、吹雪等の中でも道を見失わないように、道路脇に設置している視線誘導標(スノーポール)を、この路線では通常の高速道路より狭い間隔で設置しています。また、道路を監視できるカメラも、他の高速道路より多くし、全線を監視できるようにしています。開通後は、

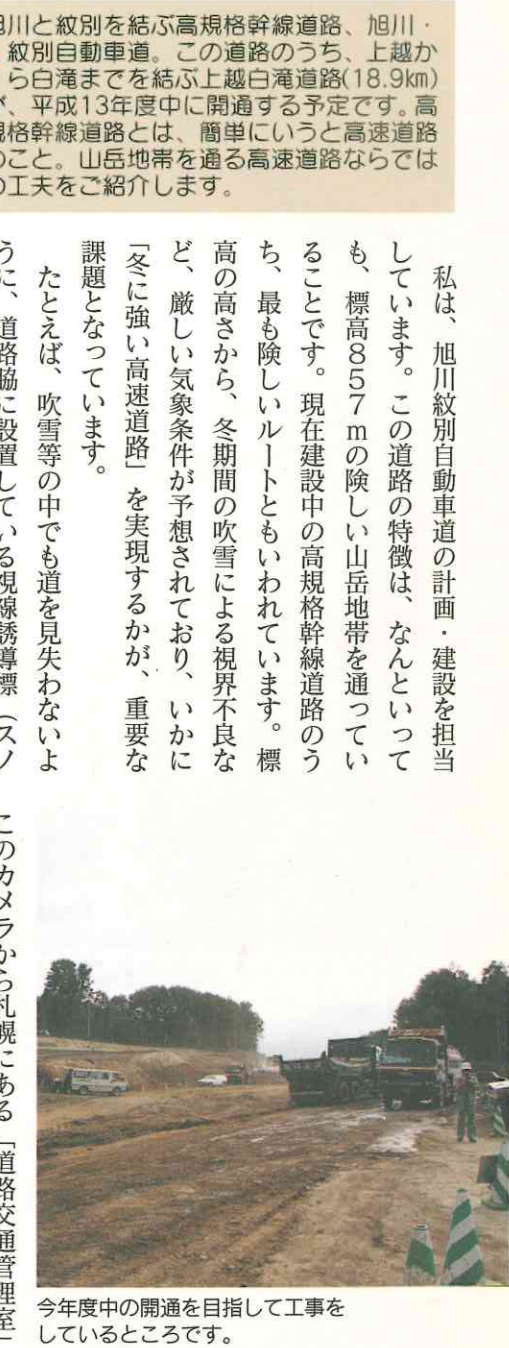
このカメラから札幌にある「道路交通管理室」に映像が送られ、路面や気象状況などを、24時間リアルタイムで監視することになります。

私は、この春からこの事業所に赴任してきたのですが、実はその前は、同じ道路を旭川側から建設していました。同じ道路を反対側から造ることになるとは思いもしませんでした。やはり開通をこの目で見る事ができるのは、うれしいことです。

今回開通する道路だけでも、移動時間が短縮されますが、やはり道路は、ネットワーク化されてこそ、最大の効果を発揮するものです。北海道縦貫自動車道と接続できると、観光や物流により便利になると思います。また、「浮島IC」や「白滝IC間」には、パーキングエリアが設置され、そこに白滝村の物産館が併設されることになっています。こうして、道路の開通が行の便利だけでなく、地域の活性化につながると思うと、大変やりがいを感じる仕事ですね。一日も早く開通して、より多くの方々に利用していただきたいと思っています。

しと 最・前・線

開発局と地域を結び
主役はまさに「ひと」
地域の人々と一緒に考え、行動する
その最前線に立つ姿を紹介します



今年度中の開通を目指して工事をしているところです。

「道の駅スタンプラリー2001」は、11月4日(日)で終了します。忘れずにご応募ください!! 完全制覇賞は2002年3月31日(日)まで毎年好評のスタンプラリーが4月21日からスタートしています。北海道の70カ所の道の駅のスタンプを7個以上集めると、抽選で各地の特産品や豪華商品が当たります。完全制覇賞もありますのでチャレンジしてみませんか。各道の駅でラリー帳とスタンプを用意してお待ちしています。さらに詳しい情報は、北海道開発局のホームページでもご覧いただけます。<http://www.hkd.mlit.go.jp>

TOUR DE HOKKAIDO

北の大地を駆けるツール・ド・北海道。
この日本最大の自転車ロード・レースは、今年で15回目を迎えました。
今年9月12日から18日までの7日間、
道南から道央を舞台に国内外20チームが参加し競技が繰り広げられました。
市民参加競技も行われ、沿道にはそれぞれの競技に多くの人々が訪れていました。



見る・知る・学ぶ 北のみち 道路情報館

24時間開放スペース



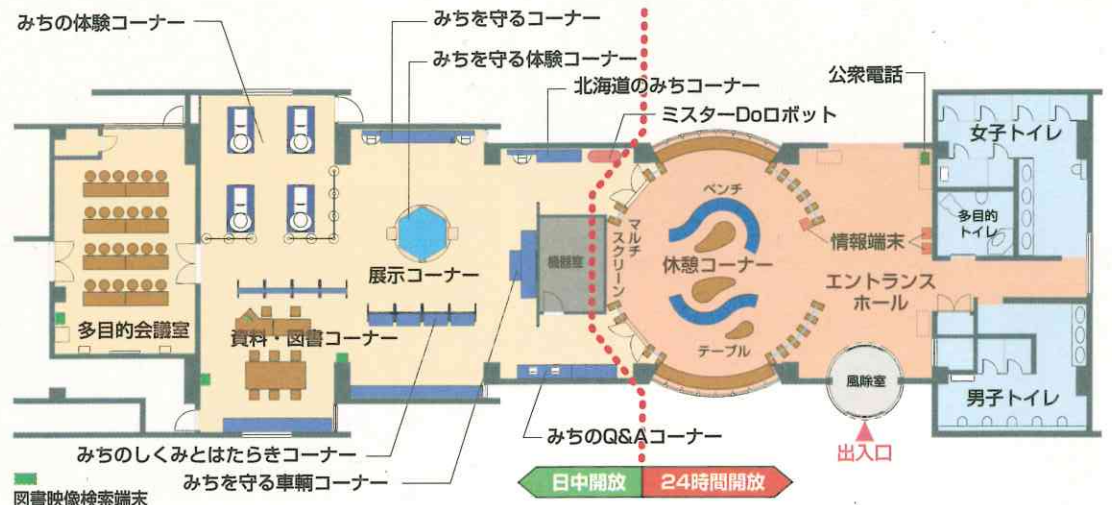
大画面で道路情報が見れる休憩コーナー



いろんな情報が引き出せる道路情報端末



24時間いつでも使えるきれいなトイレ



日中開放スペース



いろんな用途で使用できる多目的スペース



道路に関する資料・図書コーナー



楽しみながら学べる日中開放スペース

お問い合わせは・・・
道路情報館 札幌市豊滝424-1
TEL (011) 5065-5065

日中開放スペース
北海道ならではの道路の特徴や、道づくりについて楽しく体験的に学べ、道路についてより深く理解することができるスペースです。
ここでは、普段見ることのできない道路の下や、道路の守りかたなどをパネルやクイズを用いてわかりやすく紹介したり、最新の情報システムを紹介したりしています。
また、資料・図書コーナーでは、北海道の道路の歴史や道路に関する最新技術等約7千点の図書や映像（DVD）を自由に閲覧・検索することができます。他にも充実した視聴覚施設を備えた多目的スペースがあり、このスペースは、様々な会議やセミナーの場として利用することもできます。

24時間開放スペース
このスペースでは、刻一刻と変化する道路情報を、マルチビジョンやタッチパネル画面の道路情報端末を通して、利用者にリアルタイムで提供しています。また、トイレや自動販売機は24時間利用することができますので、ドライブ前の情報収集や、ドライブ途中の休憩場所として最適です。

北海道で初めての道路情報館が誕生!

北海道の道路が、もっと快適に、身近になる「道路情報館」。
春夏秋冬いつでも、ドライブの途中にお気軽にお立ち寄りください。



道路情報館で待ってるよ!!

- 利用のご案内**
- 休憩室・トイレは24時間開放しています。
 - 開館時間 展示コーナーは午前9時30分～午後5時30分
 - 休館日 毎週火曜日と年末年始
 - 入館料 無料
 - 駐車場 普通車:30台、大型車:5台

- 交通のご案内**
- 車でお越しの場合
※札幌中心部より国道230号を利用し、約30分。
 - バスでお越しの場合
※札幌駅バス乗り場より、定鉄バス「7」「8」定山溪行き及び、地下鉄真駒内駅バス乗り場より、定鉄バス「12」定山溪行で、「豊滝」下車、徒歩約2分。



2月のオープン以来、約17万人の来場者!
今年2月、札幌市南区豊滝の国道230号沿いに、「道路情報館」がオープンしました。この「道路情報館」は、北海道で唯一の「道路」に関する資料館です。オープン以来、8月までに約17万人の来館者を迎え、現在も多くのドライバーや家族連れでにぎわっています。
館内は、道路について楽しく学べる日中開放スペースと、道路の最新情報を24時間得られる休憩スペースに分かれており、多くの方から「楽しく道路のことを知ることができた」「24時間きれいなトイレが助かる」「峠情報を知ることができて安心だ」といった喜びの声をいただいています。
また、「道路情報館」は、最新道路情報の発信基地であると同時に、来館者の声やイベント等でのアンケートで集めた、一般の道路利用者が何を求めているのかという声を今後の道路事業に反映させる機能もあります。つまり、道路を作る側と使う側の交流をはかっているのです。
たくさんの方の要素が詰まった館内をご紹介します。

北国賦



古き良き未来へ

ストリートオルガン制作者
谷目 基



手廻しオルガンや、オルゴールなどの自動演奏楽器は、18〜19世紀のヨーロッパで盛んに製造され、街角や酒場などで人々に親しまれてきました。20世紀になって、ラジオやレコードが世界中に普及して、人々が手軽に音楽を楽しめるようになるにつれ、手廻しオルガンは街角から姿を消し、今では制作者も数えるほどしかいなくなりました。今、皆さんが博物館や観光地で目にするオルガンは、大部分が古き良き時代のアンティークなものでしょう。

「インターネットやケータイの時代なのに、あなたは随分古くさいものつくってんだねえ」。僕とオルガンに出会う多くの人は、たいがいこんな言葉を投げかけます。でも、ハンドルを廻すうちにだんだん、「古くさい」印象が、「懐かしいんだけど新鮮」な感覚に変わっていくようで、ほとんどの人が、自身の感覚の変化に驚くようです。

初めてオルガンに出会った人々に、この木の笛の音色が懐かしいと言われるのは、本当に不思議なことでした。実は僕も、初めて街角でこの音色に出会ったとき、何とも懐かしい雰囲気につつまれ、同時に何か今まで感じたことのない、新しい感覚が目覚めた気がしたのです。懐かしいけど新鮮な感覚：オルガンを創ったり、古いオルガンの修



理をしながら、いつもこのことを考えています。未だはっきりとした答えが見つからないのですが、おぼろげながらもひとつだけ、わかってきたことがあります。

それは、街のいたる所に人工的な電子音があふれ、車の騒音や空調の音で、本来聞こえるはずの風の音や木々のざわめきがかき消されてしまっている現代の暮らしの中で、こんな素朴な木と風が奏でるメロディーが、人の心の中にも眠っていた、自然界の生き物である人間、の本来の感受性を蘇らせているのかもしれない、ということなのです。

どんな時代になっても、どんなに暮らしが変化しても、人の自然感覚は廃れることなく心の中にも生き続け、きつと受け継がれていくのだなと、この仕事を通じて実感し、ちよっぴり安心していきます。

20世紀に埋もれてしまった手廻しオルガンの文化も、廃れることなく続

いていくはずですよ。古き良き時代の職人の技術を、空白の時代を超えて、これからの21世紀に受け継ぎ、ふたたび発展させていきたいと思っています。

人々の心豊かにするのは、政治力でも経済力でも軍事力でもなく、五感を呼び覚ます、音楽や踊りや祭りといった、昔から変わることなく受け継がれてきた、文化のちからです。流行や、便利なシステムに流されることなく、ゆっくりでいいから、自分の足で、前向きに一步一步あるいていきたいものですね。

そう、古き良き未来へ向かって。

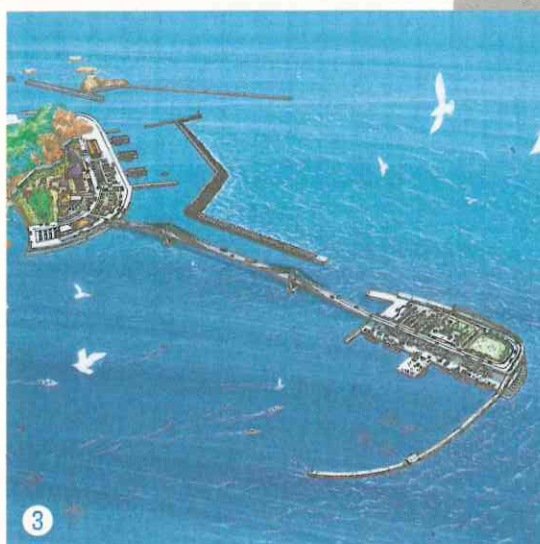
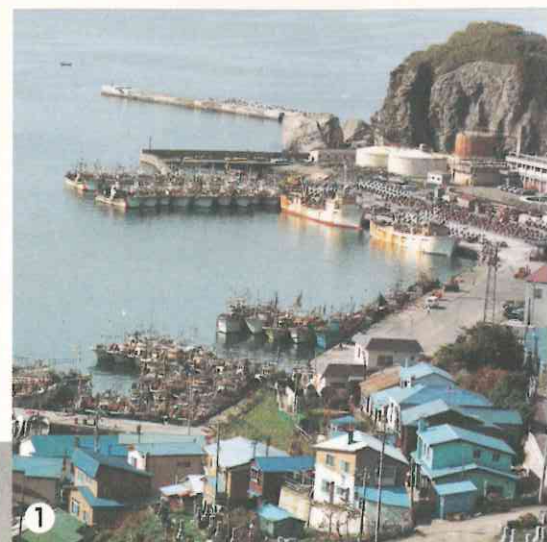
Profile
谷目 基 Motoki Tanime

昭和42年、函館市生まれ。飛騨・高山で木工とからくり人形の技術を学び、山製のバイブオルガン工房でオルガン製作を学ぶ。平成7年、厚沢部町中館の森に手廻しオルガン製作工房「ハレル研究所」をつくり、オルガン製作を始める。製作したオルガンは、兵庫県西宮市の「堀江オルゴール博物館」、函館元町の「ギャラリー村岡」、道の駅「にしおこっぺ花夢」ほか日本各地に置かれている。

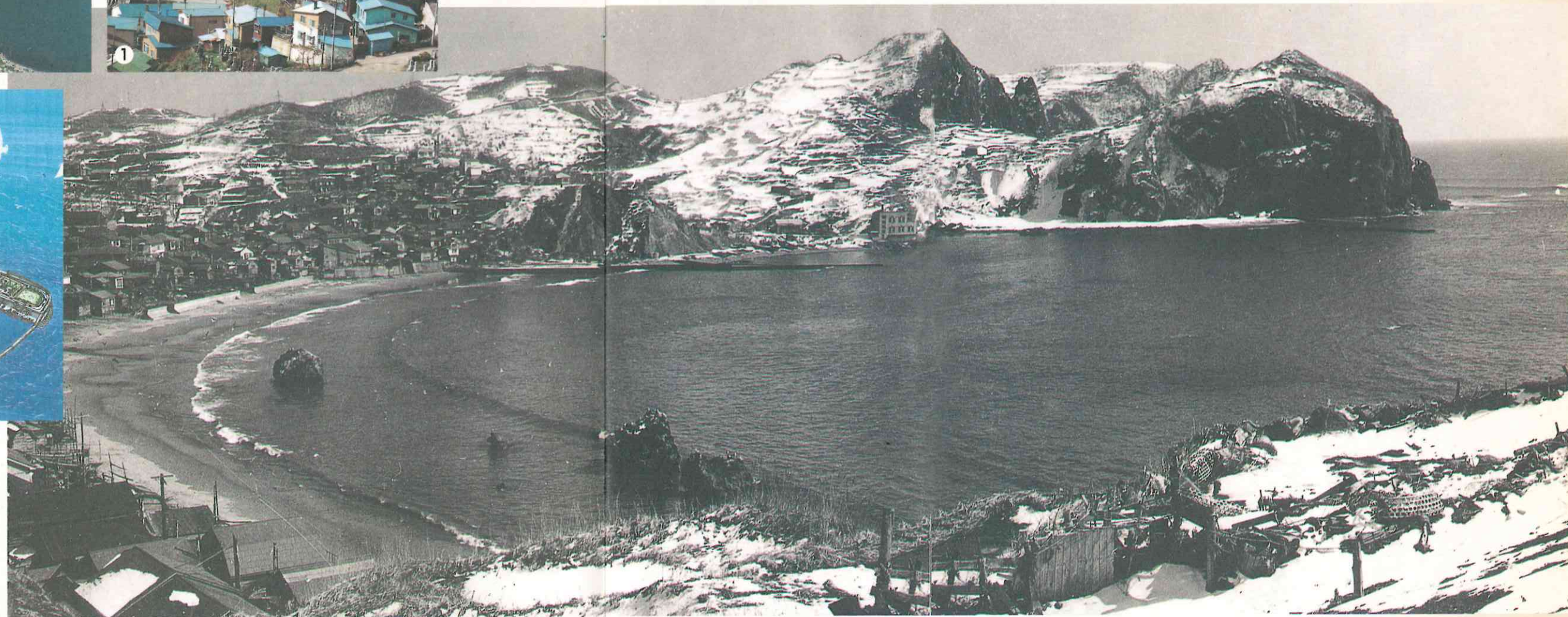
いつか世界中の子供たちに、オルガンの音色を届けたい...

沖合・遠洋漁業の基地から つくり育てる漁業の基地へ

～追直漁港の今昔～



- ① 多くの漁船により狭隘化する漁港（昭和57年）
- ② 現在の漁港の様子
- ③ 沖合人工島建設によるつくり育てる漁業の支援基地をめざして（将来イメージパース）



北海道開発局の工事開始前の状況（昭和37年）

古くは遠洋・沖合漁業の 基地として

追直漁港は、建設当初は北海道により整備が行われていました。しかし、昭和30年代に入り、沖合漁業を営む漁船と漁獲量が増加したことから、昭和37年、広範囲な利用が行われる第3種漁港に指定されました。そして翌年の昭和38年からは国の直轄事業として、北海道開発局が漁港の建設を進めてきています。

昭和50年代に入り200海里体制の定着や、漁業資源の減少などによって、沖合漁業は厳しい状況に追い込まれました。しかし、現在でも、沖合底引き船、スケソウ・カレイ刺し網、コンブ採藻、ウニ採取、ホタテ養殖を主体とする沖合・沿岸漁業が営まれており、追直漁港は、沖合底引き網漁船の集結基地として、また道内外の漁船の中継基地として、さらには隣接する地域の中核となる漁業基地として、大きな役割を果たしています。

つくり育てる漁業の 基地をめざして

近年の水産資源の減少により、漁業は従来の「とる漁業」から、養殖などを行う「つくり育てる漁業」への転換が求められてきています。この漁業の変化に伴い、漁港も、沖合・遠洋の大型漁船に対応した整備から、これら「つくり育てる漁業」へ対応した整備への転換が求められています。

追直漁港ではこれらの情勢を考慮し、平成5年に「Mランド構想」が策定されました。これは、つくり育てる漁業のため、沖合に人工島を建設し、ホタテ、ウニ、クロソイ等の増養殖の支援を行うものです。このほか、漁港内に緑地を整備するなどして、市民が海と親しんだり、交流したりできる場となる漁港づくりをめざしています。今後、夢の沖合人工島の早期完成をめざして整備を進めていきます。

追直漁港は、室蘭市の中心市街地に隣接し、太平洋をのぞむ漁港です。天然の入り江に位置していることから、古くは明治時代後半から、漁港を建設することが望まれていました。そして、昭和26年に漁港の指定を受けて漁港の建設が開始され、現在に至っています。

市町村合併支援相談窓口を設置しました

現在、政府においては、市町村の合併に対する取組を総合的に支援するため、各般の取組を行っています。

北海道開発局では、8月27日（月）から北海道開発局及び各開発建設部に市町村合併支援相談窓口を設置しました。

この窓口では、国土交通省及び農林水産省の市町村合併の支援に関するご相談に応じることとしており、相談の方法は、電子メール、FAX又は郵送のほか、対面でも行います。

なお、北海道開発局における市町村合併支援相談窓口に関する内容は、北海道開発局のホームページでもご覧になれます。

アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/press/gappei/index.htm>

市町村合併支援相談窓口

| 組織 | 相談窓口 | 電話番号 |
|----------|------------|-----------------------|
| 北海道開発局 | 開発監理部開発計画課 | 011-709-2311 (内線5468) |
| 札幌開発建設部 | 地域振興対策官 | 011-611-0111 (内線2452) |
| 石狩川開発建設部 | 地域振興対策官 | 011-621-1541 (内線3473) |
| 函館開発建設部 | 地域振興対策官 | 0138-42-7111 (内線452) |
| 小樽開発建設部 | 地域振興対策官 | 0134-23-5131 (内線402) |
| 旭川開発建設部 | 地域振興対策官 | 0166-24-2131 (内線572) |
| 室蘭開発建設部 | 地域振興対策官 | 0143-22-9171 (内線386) |
| 釧路開発建設部 | 地域振興対策官 | 0154-24-7000 (内線3429) |
| 帯広開発建設部 | 地域振興対策官 | 0155-24-4121 (内線403) |
| 網走開発建設部 | 地域振興対策官 | 0152-44-6171 (内線488) |
| 留萌開発建設部 | 地域振興対策官 | 0164-42-2311 (内線463) |
| 稚内開発建設部 | 地域振興対策官 | 0162-33-1000 (内線2454) |

えぞためき

7月に初めて広報担当となり、広報誌の発行に携わりました。就職して〇〇年を過ぎようとしているにもかかわらず、まだまだ自分の知らないことがたくさんあり勉強の毎日です。

この号が発行になる頃は秋。秋といえば、山の紅葉、川に上る鮭、ぶどう、じゃがいも、秋刀魚などさまざまなものが思い浮かびます。畑や海でとれた秋の味覚は、道路、港、空港などを使って市場に運ばれ人々の食欲を満たします。

川、道路、港、農業など、そのどれもが北海道開発局の事業と深く関わっています。

もっともっと北海道が豊かな大地となるために、北海道開発局の職員の一員として、今の仕事もその一助になればと思っています。今日この頃です（格好つけすぎかな?）。

(K)

全般的に写真、絵、図も多く大変良いと思います。文字がもっと大きいほうが読みやすいと思います。

(登別市 M. S.さん)

開発事業のあゆみ「我が国最初の西洋式馬車道」の文章、写真が良かったと思いました。これからの歴史に関係する記事を書いてください。（中富良野町 K. A.さん）

昨年関東から引越してきたので、北海道のことは全然知りませんでした。今回の「I-T」とこれからの北海道」の特集は、わかりやすくまとめてあり、ためになりました。（札幌市 M. I.さん）

ひろば

はがきアンケート
はがきより...

「がいほつぐらふ」が

インターネットでもご覧になれます。

北海道開発局のホームページでは、「ほっかいどうかいほつぐらふ」の誌面の一部を掲載しております。掲載している記事は、特集、しごと最前線、事業紹介（17号以降）です。バックナンバーも見ることができますので、ぜひアクセスしてみてください。



アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp>

ピックアップ

平成13年度北海道地方発明表彰 特別賞（文部科学大臣賞）、 実施功労賞、知事賞を受賞

去る9月28日、平成13年度北海道地方発明表彰が行われました。

当局関係では、北海道開発局防災・技術センター（旧建設機械工作所）と民間会社が共同で開発した除雪トラックグレーダ装置の「ブレード自動制御システム」が特別賞である文部科学大臣発明奨励賞を受賞し、当局職員の近藤保さんと沢口重夫さんが表彰されました。また本発明の開発実施者として、北海道開発局防災・技術センターが実施功績賞を受賞しました。さらに、「ロータリー除雪車回転部の安全装置（オーガ駆動機構）」が北海道知事賞を受賞し、宇佐美均さんと谷本直樹さんが表彰されました。

この発明表彰は、社団法人発明協会が全国各地における発明の奨励・育成を図り、科学技術の向上と地域産業の振興に寄与することを目的として、大正10年に創設したもので、今回の受賞は今後の職員の励みとなるものです。



より地震に強く、より経済的に

～釧路港で世界初の研究～

北海道は地震が多く、平成5年の釧路沖地震、北海道南西沖地震などにより、港では地盤の液状化による岸壁の沈下など、多くの被害が発生しました。このため、平成8年から北海道開発局開発土木研究所が、岸壁の耐震設計法を研究しています。平成13年度からは、釧路港-14m岸壁の周辺で、土圧、水圧などの現地計測が始まりました。この研究の目的は、地震が起こったときの液状化発生の有無による岸壁に働くさまざまな力の違いを適正に評価することにより、新たな耐震設計法を確立し、建設コストの縮減を図ることです。

このように、実際の岸壁で液状化発生を考慮した耐震試験を行うのは、世界初の取り組みで、その研究成果が期待されることです。



開発カレンダー 2001年 10月～12月

()内は開催地

10月1日～31日

秋の都市緑化月間

10月25日

環境・景観に配慮した事例研究発表会
(札幌第1合同庁舎2階講堂)

10月27日

「ザ・シンポジウムみなと in 網走」
(網走市オホーツク・文化交流センター)

12月6日

平成13年度 第3回環境セミナー
(札幌第1合同庁舎2階講堂)



※25号(前号)8月1日～31日「道路をまもる月間～8日：道の日」は「道路ふれあい月間～10日：道の日」の誤りでした。



「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。